≪審判上の確認事項≫

1　本大会は、２０２３年度（公財）日本バレーボール協会６人制競技規則で行う。

2　プログラム記載時刻にプロトコールに入る。但し、前の試合が延長し設定時間までに終わらない場合は、前の試合の終了後、５分間の合同練習（ボール使用可・パス程度）行いプロトコールに入る。

3　公式練習は合同で行う場合は６分とし、単独で行う場合は３分ずつとする。その際、コートを使用する権利のないチームが練習を行うことができるのは、コートで練習しているチームの後方のみである。

4　公式練習はエントリーされたメンバー以外の参加も認める。ただし、隣のコートへのボール侵入を防ぐことを目的としているため、エントリー選手やマネージャーと同様の働きはできない。また、服装もある程度統一しておくこと。(ユニホームに似た服装は不可)

5　各コートには、ウォーム・アップ・エリアを設ける。ただし、エリア内でのボールの使用は禁止する。なお選手、ベンチスタッフのマスクを着用については任意とする。

6　セット間はフリーゾーンでのボールの使用は認めるが、隣のコートの妨げにならないように注意し、パス程度とする。

7　スポーツマンとしてふさわしくない行為はしないこと。(相手チームに向かってのガッツポーズ、失敗をしたときに床を叩く、ボールを相手に返す際に必要以上の強さで返す等)

8　スピーディなゲーム運営のため、以下の点にご協力ください。
　①　ボールは速やかに拾いに行くこと。
　②　次のサーバーは、相手からの返球を待たずにサービスゾーンに移動し、ボールを待つこと。
　③　ボールデッドになった時点で、必要以上にコート外へ飛び出さないこと。また、コート上の選手がベンチのスタッフと、タッチ（ハイタッチ）などを行わないこと
　　⇒「遅延行為」と見なすこともある。

9　タイムアウトは、ハンドシグナルを示して要求すること。ただし、審判が気付かない場合は、立ち上がったり、コールをしたりしての要求（従来通りの要求）をすること。

10　試合中のワイピングについては、原則としてコート中の選手が行う。モップは、タイムアウト中とセット間、及び審判が危険と判断した場合のみ使用する。

11　中体連の「クイック・サブスティチューション・システム」採用方法。

□副審の手続きの方法については次の通り行うものとする。
　①　競技者交代については、交代する選手が、サブスティチューション・ゾーンの中に入ることで要求が成立する。
　②　副審は、ポールのそばに立ちその交代をコントロールする。要求があった時点で吹笛しハンド・シグナルを示す。
　③　複数の競技者交代の要求は、１組（以上）をサブスティチューション・ゾーン内で待たせ、順次手続きする。

12　リベロの取り扱いについては、「(公財)日本中体連における『リベロリプレイスメント』の変更についての付則」（２０２１年9月１９日付）を適用する。（Ｐ１６、１７、１８）